

日時	令和 7 年 9 月 2 4 日（水） 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時 3 0 分
場所	旭川市総合庁舎 7 階大会議室 B
出席者	委員 9 人 小松委員、椎名委員、杉山委員、谷委員、中込委員、長谷川委員、 福屋委員、三上委員、山本委員（5 0 音順） 事務局 4 人 片岡部長、松山次長、牛田補佐、朝日主査
傍聴者	なし
資料	資料 9-2 課題解決検討シート（託児費用補助）第 2 回会議まとめ 資料 12-2 課題解決検討シート（学生向けアンケート）第 2 回会議まとめ 資料 13 学生向けアンケート新旧対照表 資料 13-2 アンケートチラシ 資料 13-3 学生向けアンケート 資料 13-4 市民参加証明メール 資料 13-5 市民参加証明書 資料 13-6 学生向けアンケート結果報告書 資料 14 課題解決検討シート（学生の市民参加）
議事	
1 開会	・委員の 9 人が出席したため、条例第 19 条の規定により会議の成立を報告。
2 議題	
(1)託児費用補助について	・事務局から資料 9-2 に基づき説明があった。 （会長）前回内容について、報告を受けたが意見や質問等はないか。 （委員）なし
(2)学生の市民参加について	・事務局から資料 12-2～13-6 に基づき説明があった。 ・次のとおり各委員から意見、感想があった。 （各委員） ・アンケート回答者にパブコメ経験者が 3 人おり、意識の高さに驚いた。 ・学生は政治や市役所に興味・関心がない印象を持つ。特典付きアンケートなら参加が増える可能性がある。大学の学祭など行事でアンケートを実施すると効果的ではないか。市民参加に興味を持つ学生がいる点は評価したい。 ・各学部の学生数や回答者の割合を知りたい。学生には一斉メールではなく担当教官からの通知だと回答率が高くなる。学祭などのイベントでアンケー

トを実施すると一般の参加者も含め回答を得やすく、特典もつけやすいと考える。市民参加を広げるには高校生からの啓発や仕組み作りが必要。

- ・大学在籍者約 1000 人中 63 人の回答で課題が残るが、一步踏み出した印象。回答者の意見や結果を公開し、学生が自分の回答がどのように生かされたかを分かる仕組みがあると、回答者の満足度や参加意識が高まるほか、キャリア形成にも役立つ可能性がある。

- ・回答者のうち 1 割が自由記入欄に回答するなど、前向きな結果が得られたことを評価したい。市政への関心がある層が一定数存在し、地域に対する意識や貢献したいというポジティブな思いが見られた。機会がなかっただけで、適切に働きかければ関心を持つ学生は増えるのではないかと。SNS が若者との接点として重要であり、アンケート周知や参加促進に効果的なツールと感じた。

- ・選挙の投票と同様に、関心や興味が薄いと参加が低調になる傾向が見られる。学生や若者への働きかけは工夫が必要。

- ・回答内容に誠意や前向きさを感じた。市民参加証明書は、PDF 形式のしっかりしたデザインへと仕上げた点を高く評価したい。市民参加証明書の発行案内の文言は「ダウンロードできます」といった具体的な文言を追加し、確実に証明書を保管できる方向へ導いてあげる工夫が必要。

- ・大学がメールというツールを選択する背景には、社会人マナーを含め、学生を優秀な人材として育てる使命を果たしたいという思いがあると考えられる。アンケートを単なる調査に留めず、就職活動や社会人マナー習得など、学生にとって意義ある経験として活用できる企画を構築できるとよい。

(会長)

証明書に「いつ、何を、どの課が実施したアンケートか」を記載することで、学生の参加した履歴を持つ証明として活用できる可能性がある。この仕組みは学生の就職活動やキャリア形成に役立つ可能性があるため、今後の検討事項として挙げてもよいのではないかと。

- ・事務局から資料 14 に基づき説明があった。

- ・2 つのグループで意見交流をし、次のとおり各グループから意見があった。

< 2 グループ >

- ・入学や就職オリエンテーションなどで、メールの重要性や市民参加の具体例、アンケート事例を取り入れ、協力を促す。

- ・学生会や生協など、積極的に学生活動をする学生に周知。学生リーダーに市民参加の取り組みを理解してもらい、活動の中心となって広めてもらう。

- ・地元企業に協賛を依頼し、アンケート協力した際にポイントや物品を提供する仕組みを検討。学生が「参加するメリット」を感じられることで、関心

を高める戦略。市民参加を通じて地元企業の認知度を向上させる取り組みが、地域活性化や地元就職促進にもつながる。

- ・作成した市民参加証明書を活用し、学生が就職活動で強みとしてアピールできるよう企業に段階的に周知することもよい。

- ・キャッチーなスローガンを掲げたポスターを大学内に設置し、学生の参加を呼びかける。

- ・旭川市の VTuber を活用し、動画で市民参加の仕組みや目的を現代的な方法で広報する。

< 1 グループ >

- ・先日の選挙の投票率が約 4 割であり、参加意識が低いことが示唆される。地元以外の出身で住民票を移していない学生は、市の活動に関心を持ちにくい状況。就職で離れる予定がある学生も、市への関心が薄れる傾向がある。楽しいイベントには学生は参加しているのか調査し、市民参加への関心を促す。

- ・旭川市が関わるイベントをリストアップし、「あなたが参加したことのあ
るイベントを選んでください」という形式でアンケートを実施。市民の関心
や関与状況を確認する。「市に実施して欲しいイベントを教えてください。
い。」など具体的な質問を設定し、「市がそのイベントを計画するとき、ス
タッフとして参加してみたいと思いませんか？」と運営側としての関心を引
き出す。さらに「あなたのアイデアや提案があれば教えてください。」と具
体的な意見を募る。最後に「その企画の際に声をかけたいので、メールアド
レスを提供いただけますか？」と質問。個人との直接的な連携を目的に、イ
ベント参加から市民参加へ繋げる道筋を作る。「経験→関心→意欲→登録」
という段階的な構成で、市民参加への具体的な行動に誘導する。直接的なコ
ミュニケーションが、長期的な市民参加への繋がりを可能にする。

- ・次のとおり、各委員から意見交流内容の補足や意見があった。

(各委員)

- ・イベントへの参加は、異なる年齢層や多様な話題を通じて人の繋がりが生
み出し、地域活性化のきっかけとなる。審議会も参加者同士が人間関係を築
き、繋がりを生む場として機能している。こうした効果をさらに広げる取
組みが重要である。

- ・イベントを作るには多くの資金、時間、人材が必要となり、現実的に負担
が大きい。現存するイベントとタイアップすることで、負担を軽減しつつ新
しい取り組みを導入できる。この形が流れとして定着すれば、市民参加の概
念がより広がる。

	・子どもの頃から「市民参加」の意味や価値を学べる環境を整えることで、将来的にそれが自然な行動として定着する可能性が高まる。小・中・高と段階を重ね、学びと実践を連動させることで、市民参加が当たり前のものとして広がっていく。 ・イベントには必ず人と人とのコミュニケーションがあり、その過程で「幸せ」が生まれる。結果として地域全体が活性化する好循環が生まれる。参加の意義を早い段階から伝えることで、市民参加意識を育む基盤となる。 ・学生がワクワクするような取り組みを意識し、イベントや市民参加を促すことが重要。ハードルの低い仕組みを提供することで、学生の声やアイデアが自然に集まり、広がりやすくなる。市が主体となって情報を発信し、参加を希望する学生や団体を後押しすることで、学生たちが「参加することの価値」を感じ、継続的な活動へと繋がる。 ・市民参加証明書によって、学生が市民参加の価値を認識できる環境づくりが重要。 ・若者は「元気」や「彩り豊かな視点」を持っている。このエネルギーは地域にとって貴重な資産であり、これを活用することが重要。市で実施するイベントに自分が関わることが、若者にとって楽しさや誇りを生む。この活動への参加が「就職活動にプラスになる」など、得た経験が将来に役立つと分かれば、若者の参加意欲はより一層高まる。 ・既存の活動に創意工夫を加えて進めることで、無理なく効果的な学生の市民参加と地域活性化を可能にできる。関わった学生が「旭川で自分の居場所がある」と感じられることで、地域への定着に繋がることを望む。
3 閉会	・会長の進行により、閉会。